

社会資本総合整備計画

美濃加茂市駅北地区都市再生整備計画

平成 24 年 3 月 21 日

岐阜県美濃加茂市

都市再生整備計画(第3回変更)

みの かもし えききた
美濃加茂市駅北地区

ぎふ みの かも
岐阜県 美濃加茂市

平成24年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岐阜県	市町村名	美濃加茂市	地区名	美濃加茂市駅北地区	面積	68 ha
計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度				

目標

道路交通基盤などの整備による、住む人・来る人にやさしいまちづくり

- 地区住民が主体となり策定した駅北地区整備基本計画に基づき、道路、歩道の整備を行い、自歩行者道等の確保・円滑な車両交通の促進を図り、安全で快適に買い物や娯楽の楽しめるひとにやさしい元気な賑わいのあるまちづくりを誘導する。
- 地区内の空閑地を活用した公園施設を整備し、高齢者も子どもを含めた住民が身近に利用できる憩いと潤いのある空間を創出する。
- 公園施設を災害時の避難場所として活用し、排水施設の整備も合わせて行うことにより、浸水による水害等の災害に強い安心・安全で快適なまちづくりを推進する。
- 歩行者の安全を確保した賑わいのあるまちづくりにより、美濃加茂市の商業発展核として、駅南地区、中山道地区と合わせ、少子高齢化に対応した中心市街地の活性化を促進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

(当地区の商業集積地としての位置付・役割)

- ・当地区は、JR美濃太田駅の北口に隣接し、国道41号美濃加茂BP線、国道248号BP線、県道蜂屋太田線、市道山手線の主要広域幹線が交差する道路交通の要所に位置し、平坦な土地基盤となっているため、民間開発による大型集客商業施設が集積し、市内及び市外近郊からの集客が多く訪れる地区である。
- ・その鉄道網及び道路交通網の利便性から、市4次総合計画、都市計画マスタープラン、中濃拠点地域基本計画、都市計画区域マスタープラン等の上位計画にも、広域的な商業地区として位置づけられ、大型住宅団地および工業団地である中部台地土地区画整理事業と中心市街地を結ぶ新都市軸として、美濃加茂市発展の核となる地域であり、民間開発主導により商業集積地として順調に発展してきた地域である。
- ・歴史的観光資源を活用した観光商業地域の中山道地区、市の玄関口である駅南地区と合わせた3地区が一体となり、新都市軸の中心市街地を形成し、美濃加茂市の当面する少子高齢化に対応する、歩いて暮らせる安心安全で快適なひとにやさしいまちづくりを進める上で、今後も発展を期待される地区である。

(当地区の交通及び都市基盤の現況)

- ・この地区の現況として、広域的な主要幹線の交通量と大型集客施設の車両の流入量とが重なり、慢性的な地区渋滞を招いている。また、民間開発主導による非連続な歩道整備のため、小学校・中学校の通学路が地区内に指定してあるにもかかわらず、自歩行者の安全確保が図れず、車両及び自歩行者にとって地区内通行は危険を伴う状態となっており、地区内の人身事故だけでも、平成17年の1年間で20件以上も発生している。
- ・国道41号美濃加茂BP線及び国道248号BP線は、歩行者横断箇所も少なく、地区内外の自歩行者の商業施設への出入りが危険かつ困難であり、地区自治会組織も分断する形となっており、まちづくりの基礎となる地域住民交流の妨げとなっている。
- ・土地基盤が従前からの農地を主体としているため、農業用排水及び農業用道路が多く、排水施設の整備が遅れ、浸水被害や排水不良の箇所が多く存在している。また、公園施設等の空間が地区内に無く、子育て環境や高齢者の憩いの場が不足している。
- ・近年増加している外国人の地区内の通行者も多く、高齢者や子どもを安全に目的地に導くユニバーサルデザインが必要とされている。
- (住民によるまちづくり)
- ・この地区の住民の声を聞き、住民の求めるまちづくりを推進するために、地区内居住者、地権者、開発事業者が集まり、駅北地区まちづくり会議を結成し、行政と一体となったこの地区の整備計画を検討した。ワークショップ、アンケート等により、地区内外の住民の意見を求め、有識者・学識経験者等や行政の意見を組み入れ、駅北地区整備基本計画を策定し、この地区のまちづくりテーマを「道路交通基盤などの整備による、住む人・来る人にやさしいまちづくり」と定め、安心安全で快適な商業集積地区のまちづくりを目指すものである。

課題

- ・地区内道路の整備を行い、自歩道を新設あるいは連続させ、自転車及び歩行者の安全確保を図り、通学児童・学生や住民、通行者を車両の交通被害から守り、歩行者の公共サインを設置し歩行者を適切に誘導する必要がある。
- ・国道41号美濃加茂BP及び国道248号BP線の横断経路を確保し、そこに繋がる導線としての歩道を整備し、横断者の安全を確保する。
- ・公園施設の整備を行い、憩いや潤いのある空間を創出することにより、地区内の住民の交流を促進し、少子高齢化に立ち向かう地域づくりを行う必要がある。
- ・公園等の整備を行い、緊急時の避難場所の確保及び排水路施設の整備による浸水に対する被害や排水不良の解消を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- ・美濃加茂市第4次総合計画では、「まちに元気・人にやさしさ・暮らしに環境」を将来像として、この地区を、駅北発展核ゾーンとして、市発展の核として位置づけている。少子高齢化に向かい、地区住民はもちろんのこと、近接する住宅団地や近隣市街地住民の高齢者にもやさしい歩いて暮らせるまちづくりを進めるためにも、駅南地区や中山道地区の商業地域と連携し、4次総合計画の5本の柱の「交流のさかんな「産業経済」のまちづくり」を目標とし、商業拠点として発展し続ける役目を担っている。
- ・自歩道整備、公園施設整備等を行い、歩いて暮らせる憩いや潤いのあるまちづくりを進め、地域住民の連携・交流を促進し、4次総合計画の5本の柱の「住んで誇れる「環境都市」のまちづくり」を形成していく。
- ・公園施設を避難場所として新設し、また、排水路施設の整備を行い、災害に強い安心安全なまちづくりを目指す。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
まちづくり整備満足度	%	市民アンケートによる、満足度調査	駅北地区整備基本計画に基づく整備事業により、住む人・来る人にやさしいまちづくりの達成度の測定	31	H18	50	H24
自転車歩行者(通行)数	人/日	地区内交差点4箇所による自歩行者(通行)数	安全で快適な歩行者等の導線の確保を図り、通行者の増加による元気な賑わいのあるまちづくりを目指す。	4,421	H18	4,600	H24
憩いの空間入場者数	人/日	地区内における公園への入場者数(休日)	公園の整備により、誰もが身近に憩える空間を設置することにより、住む人・来る人にやさしいまちづくりを創出する。	0	H19	38	H24

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>○地区内道路整備を行い連続性のある歩道を確保することにより、安全で快適な歩行者等の導線の確保を図る。 駅北地区整備基本計画に基づき、国道の横断スペースを確保すると共に、地区内道路の整備を推進し、連続性のある歩道を確保し、通学児童、学生、住民、来場者の車両からの安全を確保し、快適に買い物、娯楽の楽しめる商業集積地を創出する。</p>	<p>国道248号歩道設置事業(基幹事業)、市道11007号線道路改良事業(基幹事業)、国道41号BP線押ボタン式横断信号設置事業(関連事業)、国道248号BP線押ボタン式横断信号設置事業(関連事業)、国道41号BP横断歩道設置事業(関連事業)、</p>
<p>○地区内道路及び交差点の整備を行い、道路幅員の確保や迂回路を新設することにより、安全で円滑な自動車交通の促進を図る。 駅北地区整備基本計画に基づき、農業用排水路の改修による道路復員の確保、交差点改良、迂回道路の新設等を行い、慢性化している地区内外の道路の渋滞緩和及び交通事故の減少を図る。</p>	<p>市道318号線道路改良事業(基幹事業)、市道166号線道路改良事業(基幹事業)、市道318号線排水路改修事業(基幹事業)</p>
<p>○公園施設や加茂川沿道整備を行い、憩いや潤いのある災害に強い市街地環境の形成を図る。 地区内公園の設置、加茂川沿道を活用した散策ルートを創設し、子どもから高齢者まで、地域と連携した交流のある憩いや潤いの空間を創設する。公園施設を活用した避難所や排水施設整備により、災害に強い安心のまちづくりを行う。</p>	<p>加茂川沿道整備事業(関連事業)、市道167号線他8路線道路改良事業(基幹事業)、大塚公園改修事業(基幹事業)</p>
<p>その他</p>	
<p>・美濃加茂市第4次総合計画の中で、駅北発展核ゾーンとして本市発展の核となる地域として、計画的な土地利用計画の推進し、各種まちづくり事業の推進に努める。美濃加茂市都市計画マスタープランの中では、「可茂地域の新発展核の形成」として、まちづくり重点地区に掲げ、歩行者等・自動車の安全通行確保を推進。美濃加茂市農村活性化土地利用構想では、商業団地の建設により、農業者の就労機会の増大や地域経財活動の活性化を期待等、市の主要計画の中でこの地区のまちづくりが位置づけられている。</p> <p>・平成17年度都市再生プロジェクト推進事業(国土交通省都市・地域整備局)中山道太田宿・日本ライン下り等を生かした、歩いて楽しい中心市街地の再生計画検討調査報告書の中に、可茂地域の新しい広域的な商業拠点として位置づけ、駅南地区、中山道地区とそれぞれの個性を生かしつつ連携し、中心市街地を形成していく方向を位置づけている。又そのために、駅北地区の歩道や排水路整備は必要であると報告されている。</p> <p>・中濃地方拠点地域基本計画及び美濃加茂都市計画区域マスタープランの上位計画の中でも、産業文化拠点及び中心商業地の形成を掲げている。</p> <p>・駅北地区整備基本計画を策定するにあたり、駅北地区まちづくり会議(構成員:地区地権者、地区住民、開発事業者計30名)をワークショップ形式で7回開催、駅北地区まちづくり計画策定協議会(構成員:学識経験者、交通安全協会、県公安委員会等11名)を3回開催、駅北地区整備基本計画検討会(構成員:庁内関係部署16名)を5回開催し、駅北地区のまちづくりについて検討協議を行い、また、住民アンケート(対象者:地区内居住者、地権者、地区外市民750名うち回答者292名)を行い、地区の問題、将来像、まちづくり等の意識や意向調査を実施し、幅広い方面からの意見を駅北地区整備基本計画策定の基礎とした。</p>	

駅北地区(岐阜県美濃加茂市) 整備方針概要図

目標	道路交通基盤などの整備による、住む人・来る人にやさしいまちづくり	代表的な指標	まちづくり整備満足度 (%)	31 (18年度)	→	50 (24年度)
			自転車歩行者(通行)数 (人/日)	4,421 (18年度)	→	4,600 (24年度)
			憩いの空間入場者数 (人/日)	0 (19年度)	→	8 (24年度)

